



SESERAGI—MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2020～2021年度 RI会長 ホルガー・クナーケ
RIテーマ ロータリーは機会の扉を開く

クラブテーマ「思いはひとつ」

会長 加藤正幸

副会長 米山晴敏 幹事 服部光弥

第1461回例会
2020.10.9(金)晴

裾野RCと合同例会 於:米山梅吉記念館
ロータリーソング「奉仕の理想」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 加藤正幸君



裾野クラブのメンバーの方々、本年度せせらぎ三島RC会長の加藤です。宜しくお願ひ致します。

合同例会開催、誠に有難うございます。グループ編成替えにより離れてしまいましたが、一緒に例会出来る事うれしく思います。ロータリーの4つのテストにあるように「好意と友情を深めるか」の言葉をまさしく実行している事になると思います。今回、裾野クラブ幹事様、当クラブ矢岸君の計らいに感謝します。

今年の当クラブのスローガンは「思いはひとつ」です。メンバーの協力により順調にスタートしていると思います。裾野クラブさんとこれからも交流を続けていければと思います。

本日は弁当手配から会場設営までお世話になりました。有難うございます。



出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	24/32	75.00%	26/32	81.25%
今回	23/30	76.67%	会員総数	33名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

石井(司)君、伊丹君、小林君、篠木君、土屋君、中本君、渡邊君
(*出席免除会員の欠席者 田中君、中村君、山本君)



米山梅吉記念館 新館長
原啓次郎さん

米山記念館での裾野ロータリークラブ、せせらぎ三島ロータリークラブ合同例会では、裾野クラブ中村会長、芹沢幹事に大変お世話になり感謝申し上げます。私の方から令和元年度米山記念館事業活動報告と創立50周年記念事業特別寄付について報告致します。

来館者について、前年度は135クラブ約4000人、今年度は92クラブ約2600人ほどです。前年度に対し来館されたクラブ、人数ともに減少した理由としましては、9月14日に開催された創立50周年記念式典が、全国各地のクラブから約800名のロータリー関係者が参加し盛大に行われました事や、4月より新型コロナウイルスの影響で団体による来館をお断りしていた事によるものであると思われま

す。今後もコロナウイルスによる影響を考慮せざるをえない状況が続きますと寄付金額の減少が予想されます。記念館の通常運営はロータリアンの寄付で賄われております。米山梅吉記念館創立50周年特別寄付額は2020年6月30日現在、総額約7,800万円です。皆様からのご厚意は記念館の事業発展に活用させていただきます。今後ともよろしくお願ひ致します。

委員会報告

国際奉仕委員会
委員長 仲原実圭君

カンボジア奉仕事業の日程変更及び支援活動の報告

本年度地区補助金等使い行っているカンボジアの環境・衛生整備事業の一環の井戸及び周辺整備は順調に進んでおりますが11月に予定していましたカンボジアへの渡航支援活動の件につきましては、コロナの影響による入国規制・管理の面で多々弊害があるため、来年2月以降に見送ることとなりました。

次に国内に在住・留学・労働目的で入国しているカンボジア人の支援に関する件では、7月に在日本カンボジア大使館の支援要請により、米500Kg、麺類、菓子等の支援活動を行いました。

その後も支援要請があり、今月10月4日に行われた、カンボジア大使館主催の京都・大阪地区支援会に、有志支援者等、協力により、米150Kg、麺類、缶詰を支援することが出来、大使より感謝の意を頂きましたことを報告いたします。

最後に、コロナの影響による支援活動は、まだまだ続く事が予想されるため、引き続き準備はしていきたいと思ひますので、皆様ご協力をお願い致します。

RI会長メッセージ

2020年10月

先日、ロータリアンとローターアクターとZoomミーティングを行ったのですが、画面上の皆さんの笑顔を見つめながら、ロータリーが短期間でどれほど大きな変化を遂げたかを思わされました。ロータリーが“オールド・ノーマル”(以前の常識)に二度と戻ることがないのははっきりしています。それは、胸躍るチャンスだと思うのです。

ロータリーを見直し、作り直す中で、革新と変化があらゆるレベルで起こっています。新たな柔軟性がデジタル文化と融合して、これまでに見たことのないような変化を引き起こしています。レベッカ・フライさんのようなロータリアンには学ぶところが大いにあります。まだ31歳ですが、ロータリーでの経験はすでに15年というベテランです。

「ロータリーは、世界を変えるための素晴らしいプラットフォームだと思います。最大の影響をおよぼすには、人びとが世界に変化を起こすための力を彼らに与えることだと私は信じています。RYLAとローターアクトで、そして今、新しく設立したEクラブであるソーシャルインパクトネットワークの初代会長として、リーダーシップについて学んできました。

新クラブ創立のカギは、ロータリープログラムの学友に働きかけることです。ローターアクターなどの学友には、ロータリーに入りたいと思ひていても、自分に合ったロータリークラブが見つからない人も、ということはおうちのクラブが証明しています。23歳から41歳の会員が31名いますが、そのほぼ全員がロータリープログラムの学友です。

大事なものは、プライベートや仕事上の目標にロータリー活動を組みこむこと。このクラブを創立するにあたって、会員にとっての価値に重点を置いた、会員に合わせた新しいクラブのモデルを確立することにしました。また、ロータリー親睦活動やロータリー行動グループなどの国際的パートナーシップを生かして、クラブを超えた活動ができるようにしました。

24時間体制で会員の関心事に応えられるように、Microsoft Teamsを使ってオンラインで例会やプロジェクトの大半を行っています。これはまた、会員があるひとつの地域に限定されないということも意味します。会員の多くがオーストラリア在住ですが、中にはドイツ、イタリア、メキシコ、タンザニア、米国在住の会員もいます。

そして、プロジェクトの影響を測ることも非常に重要です。今年のPlastic Free July(プラスチックを使わない月間)では、プラスチック使用を減らすために一人ひとりができることを伝える意識向上キャンペーンを実施し、6,000人以上に働きかけました。どこでも誰でも参加できる、たしかな成果が得られるプロジェクトです。うちのクラブを通じて、人びとがともに新しい類のロータリー体験を得ていることを誇りに思ひています。今後のことを思うと楽しみで仕方ありません」

変化は絶え間なく起こり、多くの分野でまだやるべきことがあります。さまざまな背景を持つ人びとの貢献を称え、少数派の人びとを応援し、彼らが会員やリーダーとしてロータリーに参加する機会を増やしていくのは重要なことです。

ロータリーがより多様な人びとを歓迎し、より重要な存在となり、誰にとってもより一段と楽しい活動になるようにするためのツールなら、私たちの手中にあります。今こそそういうツールを活用しましょう。そうすれば、ロータリーは私たちにも、そしてまだロータリーを知らない人びとにも、機会の扉を開いてくれるのです。